

産業マネジメント専攻

I	教育の水準	教育 12-2
II	質の向上度	教育 12-4

I 教育の水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

分析項目 I 教育活動の状況

〔判定〕 期待される水準にある

〔判断理由〕

観点1-1「教育実施体制」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 専任教員 16 名のうち、民間企業役員・社員、公認会計士等の経歴を有する実務家教員 9 名、外国人教員 3 名を配置している。
- 専攻独自の授業評価アンケートを実施しており、調査結果を担当教員にフィードバックするとともに、全体の集計結果を冊子体にまとめて全教員へ配付している。また、学生と教員の意見交換を行うラウンドテーブル・ミーティングを年 2 回程度実施しており、学生からの要望については専攻運営会議で検討し改善に努めている。
- 産学の有識者で構成される外部評価委員会を毎年度当初に実施し、前年度の活動報告を行うとともに、専攻運営に関する評価・助言を受けており、社会人学生に配慮し、平成 23 年度以降はすべての授業を博多駅サテライトキャンパスで平日開講するなど、外部評価による意見を教育改善の取組に活用している。

観点1-2「教育内容・方法」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 経営専門職に求められる知識・能力修得のため、マネジメント関連基礎科目に加え、技術経営とアジアビジネスを体系的に学ぶ科目編成を行っている。また、外国語コミュニケーション能力を重視し、英語によるビジネス・コミュニケーションの科目を必修としているほか、英語開講科目を選択必修科目としている。
- 海外のビジネススクールと交流協定に基づき短期交換留学を実施しており、第 2 期中期目標期間（平成 22 年度から平成 27 年度）に受け入れた学生は各年度 10 名前後となっている。また、学生が留学先で履修した科目については単位認定を行っている。
- 1 年次生に対してクラス担任による学修点検カウンセリングを実施し、計画的な科目履修を支援しており、2 年次生に対してはプロジェクト演習指導教員又は修学指導教員による支援を実施している。

以上の状況等及び産業マネジメント専攻の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 期待される水準にある

〔判断理由〕

観点2-1「学業の成果」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 平成22年度から平成26年度の標準修業年限内の修了率は83.7%から92.5%の間を推移しており、学位取得者は平均41.2名となっている。
- 平成26年度に開催された、世界各国から選抜された24チームが出場するグローバルビジネスプランコンテストで、学生が参加したチームがPre-Startup部門で優勝している。
- 学生アンケート結果では、入学時点と比べた知識・能力の向上度について、各項目とも8割程度が肯定的な回答となっている。また、教育課程に対する満足度については、授業、ゼミナールともに8割以上が肯定的な回答となっている。

観点2-2「進路・就職の状況」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 学生は9割以上が有職者となっており、平成26年度までの修了生のうち、修了後に昇進・昇格を経験した者は50.6%、海外事業を担当した経験を有する者は35.2%、転職を経験した者は33.9%、起業を経験した者は15.2%となっている。また、博士課程への進学者は5%となっている。
- 修了生を対象として、在学中に修得した知識・能力の有用性に関する調査を行っており、「大いに役立った／ある程度役立った」と回答をした者の割合は、経営に関する専門知識では89.1%、分析的に考察する能力では93.4%、問題を俯瞰的に把握する能力では93.9%、問題解決策を見つけ出す能力では89.7%となっている。

以上の状況等及び産業マネジメント専攻の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

Ⅱ 質の向上度

1. 質の向上度

〔判定〕 質を維持している

〔判断理由〕

分析項目Ⅰ「教育活動の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 1年次生に対してクラス担任による学修点検カウンセリングを実施し、計画的な科目履修を支援しており、2年次生に対してはプロジェクト演習指導教員又は修学指導教員による支援を実施している。
- グローバル化への対応として、必修科目に英語によるビジネス・コミュニケーション科目等を配置するとともに、海外のビジネススクールと短期交換留学を実施している。

分析項目Ⅱ「教育成果の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 平成 26 年度に開催されたグローバルビジネスプランコンテストにおいて、学生が参加したチームが Pre-Startup 部門で優勝している。また、平成 27 年度の日本広告学会クリエイティブフォーラムのポスターセッションにおいて、学生が参加したチームが MVP 賞を受賞している。
- 教育の質向上支援プログラムの一環として平成 23 年度から平成 24 年度に実施したビジネスプラン・コンテストは、事業終了後も学生の自主的な取組として継続しており、他大学の学生も参加し相互学習を行うなど、アクティブ・ラーニングの機会となっている。

これらに加え、第 1 期中期目標期間の現況分析における教育水準の結果も勘案し、総合的に判定した。